

小林にとって戦争と放射能は特権的な主題である。小説家やコミック作家としても活発に活動する小林の主たる表現手段は言語であるといつてよい。美術作品であれ小説やコミックのような書籍であれ、戦争のような作家本人が経験したことがない出来事や、放射能のような人間が知覚不可能な物質を表象することを試みている。たとえば、人間が放射能を認識することができたのは、放射能がガイガーカウンターなどにより数値化されることによってであった。こうした直接認識することが不可能な主題を取り上げる小林の活動は、結果としてきわめて多様な表現形式をとり、また幾つもの作品において同じ主題が異なる相貌で表れることとなる。

2001年9月11日にアメリカで起こった同時多発テ

ロとそれに続くアフガニスタン空爆を契機として、小林は2001年10月から2002年2月にかけて、空爆のニュースがあった日には知人の家に泊まり、空爆のあった場所や死者数と共に日々の詳細を記録するプロジェクトを行った。結局134日間続けて泊まり歩くこととなったこのプロジェクトの記録は、『空爆の日に会いましょう』（マガジンハウス、2002）にまとめられている。ここではアート・アクティビズムとでもいうべき手法が用いられており、小林の戦争に対する関心が最も早く作品に表れたもののひとつだ。小林の制作活動において、このような活動とその記録という表現手法は、小説やコミックといった書物というメディアによる表現手法から逸脱する事例のひとつであろう。

2011年の東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所事故は、小林が以前から抱いていた放射能に対する関心をさらに高める出来事であった。これを契機に書かれた小説『マダム・キュリーと朝食を』（集英社、2014）は、小林の代表作といつてよいだろう。もうひとつの放射能を主題とした特筆すべき活動として、2012年から歌手のPhewとともに開始した「Project Undark」を挙げることができる。小林は「Project Undark」に朗読などで参加し、同年、ドイツ電子音楽のパイオニア、ディーター・メビウス（1944–2015）が楽曲を提供したアルバム『RADIUM GIRLS 2011』を発表した。

コミック『光の子ども』（リトルモア、2013、2016、2019）は、東日本大震災と福島第一原発事故が起こった2011年に生まれた、光という名前の少年を主人公とした物語である。光という名前は、明るい未来への希望と同時に、原子の核反応によって生まれる光も暗示している。光は、放射能を巡る科学史において重要な出来事に立ち会ったり、それに関わった人物たちと会話したりして、時空を超えて日本とヨーロッパを行き来する。光の冒険は放射能の歴史とともに進むが、そこに、アドルフ・ヒトラー（1889–1945）が美術に関心を寄せ、一時はオーストリアの哲学者ルートヴィヒ・ヴァイトゲンシュタイン（1889–

1951)とともに学んだ事実など、文学や芸術の歴史が挿し込まれる。

『光の子ども』において放射能の科学史は様々な方向へ枝分かれするのだが、小林は、分岐した歴史の要所ともいえる出来事を作品の主題として取り上げる。たとえば、本展出品作の彫刻《ドル》(2017 | cat. no. 3-04)の素材は、蛍光緑色を発するウランガラスである。アメリカの通貨ドルの語源は、16世紀初めにボヘミア(現在のチェコ)のヨアヒムスタール(現在のヤーヒモフ)で発見された銀で鋳造した貨幣「ヨアヒムスターラー」といわれている。この地では後にウランの鉱石も採掘されるが、携わった労働者は原因不明の病に悩まされ、黒光りするウランの鉱石は「不幸の石(ピッチブレンド)」と呼ばれた。このピッチブレンドから、1898年にキュリー夫妻は新しい元素ラジウムを発見することとなる。すでに1895年にはドイツでヴィルヘルム・レントゲン(1845-1923)がX線を発見し、翌96年にはフランスでアンリ・ベクレル(1852-1908)がウラン化合物から放射線を発見した。そして、ベクレルの研究を基盤として放射線の研究を続けたマリ・キュリー(1867-1934)は、放射線を発する性質を「放射能」と名付けたのだ。

それから約半世紀後の1945年7月16日、アメリカのニューメキシコ州にあるホワイトサンズ・ミサイル実験場のトリニティ・サイトで人類最初の核実験が行われ、原子爆弾「ガジェット」が爆発する。この実験は、キリスト教で三位一体を意味する「トリニティ」と呼ばれたが、なぜその名で呼ばれたのかは定かではない。小林の小説『トリニティ、トリニティ、トリニティ』(集英社、2019)のタイトルは、この核実験の名前を採用したものだ。また、過去に発表したインスタレーション《日出ずる》(2016)には、この「ガジェット」と同じ直径150センチの作品《世界ではじめての原子爆弾ガジェットの円周を祖母の毛糸で私が編む》(2016)が含まれている。

実のところ、アメリカで原子爆弾製造のためのマンハッタン計画が進められていたとき、日本もまた原子爆

弾の開発を進めていた。第二次世界大戦中、原料となるウランがヨアヒムスタールからドイツのキール港を経由し潜水艦で日本へ運ばれようとしていた。ウラン235が積み込まれたUボート潜水艦U234は大西洋の海底を進み、アメリカ、ニューハンプシャー州ポーツマス港に到着する。しかしそれが日本へ届けられることはなく、原子爆弾「リトルボーイ」が1945年8月6日に広島に、「ファットマン」が8月9日に長崎に投下され、戦争は終わりを迎える。

小林はこうした放射能、原子爆弾、戦争の歴史に、オリンピックの歴史を付け加える。近代オリンピックで初めて聖火リレーが実施されたのは、1936年のナチ政権下ベルリンにおいてであり、2年後の1938年、ナチ・ドイツの軍隊は聖火リレーの道程を遡るように侵攻を進めた。また、1940年に計画されていた東京オリンピックでは、聖火はギリシアからユーラシア大陸を横断して日本へ届けられるはずであった。本展出品作のドローイング《彼女たち》(2019 | cat. nos. 3-16-20)は、その到着を待ち望んでいた少女たちの肖像である。

このドローイングにはモデルとなった少女たちがいて、彼女たちを撮影した1枚の写真が残されている。少女たちは日の丸、鉤十字、そしてオリンピック旗を手にしてこちらへ笑顔を振りまいており、写真に添えられた一文からは、ベルリンから引き継がれるオリンピックを歓迎していることが読み取れる。その様子は今日の視点からはにわかには信じがたく、少女たちを同定することは難しい。しかしこの写真は、歴史家カルロ・ギンズブルグ(1939-)が歴史記述について提案する、「ナレーション(叙述の作業)とドキュメンテーション(資料的裏付けの作業)との緊張関係」¹⁷を想起させるものである。つまり、この1枚のイメージからは、それがどこまで歴史的に正しいかどうかを判断することはできないのだ。

戦争や放射能などの主題を扱う小林は、しばしば歴史的資料を参照し、時には資料そのものを作品の構成要素として展示する。こうした手法で制作される小

林の作品には、史実の混在だけにとどまらない緊張感が漂っている。

おわりに

本稿では、現代美術における文学という主題のもと、6名の作家の新作と過去の作品を振り返ってきた。各々の作家の作品には、直接的であれ間接的であれ、文学が様々なかたちで表れているのがわかるだろう。田村は、映像、写真、オブジェなどを用いて作品を実現している。各々のアイテムから複数のイメージが重層的に立ち上がり、映像のナレーションがそこに物語性を付け加えている。ミヤギは映像と写真によって、男性同士の親密な関係を描き出す。ふたりの男性の会話が映像のナレーションによって進行し、そこに挿入されるベートーヴェンの曲が詩的情動を喚起する。小林は、テキストの断片やハンドアウトをインスタレーションに含めることで、文学的要素を直接的に作品に取り入れている。放射能とオリンピックの歴史が、文献やイメージに関する

精緻な調査によって掘り起こされ、その成果がインスタレーションに結実している。豊嶋の作品はきわめてミニマルな表情を見せるが、細部に目を向けると、観者との関係を揺さぶる仕掛けに気付く。作品は正面性を持たないがゆえに、観者の視線は絶えずその周りを彷徨うこととなり、演劇的空間が立ち上がってくる。山城は、沖縄における米軍基地という繊細な問題を扱いながら、機知に富んだシーンを映像作品に織り込んでいく。本展ではインスタレーションの音響効果も加わって、観者を文字通り揺さぶるものとなっている。北島の写真にはタイトルに場所と日付が含まれており、作家の足跡を辿ることができる。本展では、スタイルが一見大きく異なるスナップショットと風景のシリーズが展示されているが、そこには写真が内包する時間に対する北島の一貫した姿勢を見て取ることができる。

本展は、美術と文学という大胆な展望から試みた展覧会である。もしかしたら、このフレームは必ずしも各作家の作品の核心を突いているとは言えないかもしれない。けれども、6作家の作品を続けて眺めることで、美術に潜む文学の要素が少しでも浮き彫りになれば望外の喜びである。

War and radioactivity are subjects occupying a privileged position in the work of Kobayashi, who is also active as a novelist and comic artist, and for whom language is a primary means of expression. Whether in a work of visual art or a book such as a novel or a comic, she represents events she has never personally experienced, such as war, or materials or forces that imperceptible to human beings such as radioactivity. With regard to this last, humans can now perceive radioactivity only by quantifying it using a Geiger counter or other equipment.

Kobayashi's approaches to such subjects not directly visible to the eye results in highly diverse forms of expression, and multiple aspects of the same subject appear in multiple works.

After aerial bombardment of Afghanistan began following the September 11, 2001 terrorist attacks in the US, Kobayashi launched a project in which she stayed at friends' homes on the days air strikes occurred from October 2001 to February 2002, and documented details of daily life along with the locations of bombings and the numbers of deaths. She compiled a record of the project, which ended up continuing for 134 days, in *See You on the Bombing Day* (Magazine House, 2002). This approach can be described as Art Activism, and *See You on the Bombing Day* is one of the earliest manifestations of Kobayashi's interest in war. In Kobayashi's work, this mode of activity and method of documentation represent deviations from standard methods of producing literature such as novels and comics.

The Fukushima Daiichi nuclear disaster caused by the Great East Japan Earthquake and tsunami of March 2011 further heightened Kobayashi's interest in radioactivity. Her novel *Breakfast with Madame Curie* (Shueisha, 2014), inspired by this event, is one of her masterworks. Another of her notable activities dealing with the subject of radioactivity is "Project Undark," launched in 2012 with the singer Phew. Kobayashi participated in "Project Undark" in various ways, including reading her writing aloud, and the same year released the album *RADIUM GIRLS 2011* with music by German electronic music pioneer Dieter Moebius (1944–2015).

The comic series *Children of Light: Luminous* (Little More, 2013, 2016, 2019) tells the story of a boy named Hikari who was born in 2011, the year of the Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi nuclear disaster. The name Hikari (“light”) implies hope for a bright future, as well as the light produced by the nuclear fission of atoms. Hikari travels between Japan and Europe, journeying across time and space by encountering seminal events in the history of science related to radioactivity and talking with the people involved. Hikari’s adventure progresses in tandem with the history of radioactivity, and episodes from the history of literature and art are incorporated, including the fact that Adolf Hitler (1889–1945) was an aspiring artist and once studied alongside the Austrian philosopher Ludwig Wittgenstein (1889–1951).

In *Children of Light: Luminous* the scientific history of radioactivity branches in various directions, and Kobayashi has focused on events identifiable as nexuses of the branching history as the subject of her work. For example, her sculpture *Dollar* (2017|cat. no. 3-04), featured in this exhibition, is made of uranium glass, which emits fluorescent green light. The etymological origin of the US dollar is said to be the Joachimsthaler, a silver coin minted in the early 16th century in Joachimsthal (now Jáchymov), a city in Bohemia (now the Czech Republic). Later uraninite ore was also mined in this area, but mysterious diseases affected workers who handled this shiny black ore, which was called *pitchblende*, a German word meaning “accursed stone.” It was in this *pitchblende* that Marie Curie (1867–1934) and her husband later discovered the new element radium in 1898. In 1895 Wilhelm Röntgen (1845–1923) had already discovered X-rays in Germany, and the following year, 1896, Antoine Henri Becquerel (1852–1908) discovered radiation from uranium salts in France. Marie Curie, who continued to study radiation based on Becquerel’s research, named the property of emitting radiation “radioactivity.”

About half a century later, on July 16, 1945, the first nuclear test in human history was conducted at the Trinity site at White Sands Missile Range in New Mexico, US, where the atomic bomb nicknamed “The Gadget” was exploded. It is not certain why this experiment was called Trinity, an

evident reference to the Holy Trinity in Christianity. The title of Kobayashi’s novel *Trinity*, *Trinity*, *Trinity* (Shucisha, 2019) references the name of the nuclear test. Also, she has exhibited the installation *Sunrise* (2016), which includes the work *I knit the circumference of The Gadget, the world’s first nuclear bomb, with my grandmother’s wool* (2016), a work with the same 150 cm diameter as the Gadget.

In fact, while the Manhattan Project to develop the atomic bomb was underway in the United States, Japan was also working to develop the weapons. During World War II, uranium was scheduled to be transported by submarine from Joachimsthal, via the port of Kiel in Germany, to Japan for the development of atomic bombs. A U-boat (U-234) submarine loaded with uranium-235 crossed the Atlantic and reached the American port of Portsmouth, New Hampshire. However, before the uranium reached Japan, the atomic bomb Little Boy was dropped on Hiroshima on August 6, 1945 and Fat Man on Nagasaki on August 9, and the war came to an end.

Kobayashi connects the history of the Olympics to the themes of radioactivity, nuclear weapons and war. The first Olympic torch relay in modern times was for the Berlin Olympics, under the Nazi regime in 1936, and two years later in 1938, the invading Nazi army moved back along the torch relay route as if retracing it. For the Tokyo Olympics, scheduled for 1940, the torch was supposed to be brought from Greece to Japan across the Eurasian continent. Kobayashi’s drawings *Her* (2019|cat. nos. 3-16–20), featured in this exhibition, portray girls waiting eagerly for its arrival.

Actual girls were the models for these drawings, and one group photo of them survives. The girls smile at the camera holding flags—the Japanese Hinomaru (rising sun), the swastika, and the Olympic banner—and from a text accompanying the photo, it is clear that they were welcoming the Olympics from the previous host city, Berlin. The scene is hard to digest from our contemporary perspective, and it is difficult to identify with the girls. However, this photo evokes the “tensions between narration and documentation”¹² noted by historian Carlo Ginzburg (b.1939) with regard to historical description. This single image takes on an authority of its own, and it is impossible to judge

how accurately it reflects history.

As an artist dealing with themes such as war and radioactivity, Kobayashi often references historical materials and sometimes exhibits the materials themselves as a component of the work. Because of this approach, Kobayashi's work is imbued with tension that goes beyond mere juxtaposition of historical facts.

In Closing

In this essay, we have surveyed the new and past works of six artists with the theme of the literary in contemporary art. In these artists' work the literary is manifested in various ways, either directly or indirectly. Tamura produces his work using film, photography, and objects, with multiple images emerging from each item, and video narration adding narrative content to the whole. Miyagi depicts close relationships between men through film and photography, the conversation between two

men progressing through video narration interspersed with Beethoven music evoking poetic emotion. Kobayashi incorporates literary elements directly into the work by including text fragments and handouts into installations. She has delved into subjects such as radioactivity and the history of the Olympics through careful research into documents and images, and the results are powerful installations. Toyoshima's works are highly minimalistic, but when we look closely at the details, we notice mechanisms that profoundly disrupt their relationship to the viewer. Because the works lack frontality, the viewer's gaze constantly circulates around them, and a theatrical space emerges. Yamashiro deals with the thorny issue of the US military presence in Okinawa, and weaves witty scenes into her film works. In this exhibition, sound effects are added to the installation, and the audience is literally shaken. And Kitajima's photographs include the location and date in the title, enabling us to track the artist's footsteps. Here he presents series of snapshots and landscapes that appear to differ greatly in style, but in all we can see Kitajima's consistent attitude toward the temporality inherent in the photographs.

This exhibition is a bold endeavor to connect the perspectives of art and literature. This framework may not necessarily lie at the heart of each artist's work. However, it is my sincere hope that if viewers behold the works of these six artists one after another and discover literary elements lurking in this art to even a small extent, they will be rewarded with unexpected joys.

話して

いるのは

誰？

Thoughtful Pluralities
Essays on Japanese Contemporary Art

現代
美術に
潜む
文学

目に見えないもの、時間や歴史、家族や記憶を主なモチーフとして作品を手掛ける小林は、本展でテキスト、写真、映像、ドローイング、彫刻、オブジェから構成されるインスタレーションを実現する。原子爆弾の原料となるウランと、ベルリンと東京でのオリンピック聖火の足跡を辿りつつ、原子力の起源から第二次世界大戦での使用を経て今日まで連続と続く物語を紡ぎ出すものだ。

彫刻《ドル》(2017) cat. no. 3-041の素材は、蛍光緑色を発するウランガラスである。アメリカの通貨ドルの語源は、16世紀初めにボヘミア(現在のチェコ)のヨアヒムスタール(現在のヤーヒモフ)で発見された銀で鑄造した貨幣「ヨアヒムスターラー」といわれている。この地では後にウランの鉱石も採掘されるが、携わった労働者は原因不明の病に悩まされ、黒光りするウランの鉱石は「不幸の石(Diabolent)」と呼ばれた。

ウランとオリンピック聖火の起源と歴史は、幾つもの点で交わっている。47点組の写真《わたしのトーチ》(2019) cat. no. 5-077が聖火リレーのトーチを暗示していることは明らかだ。近代オリンピックで初めて聖火リレーが実施されたのは、1936年、ナチ政権下ベルリンにおいてである。2年後の1938年、聖火リレーの道程を辿るようにナチ・ドイツの軍隊は侵攻を進め、占領されたヨアヒムスタールでは戦争捕虜たちがウランの鉱石を掘ることになった。一方、映

小林エリカ

Erika Kobayashi

像作品《わたしの手の中のプロメテウスの火》(2019) cat. no. 5-147)で掌から立ち上る火は、オリンピック聖火の起源といわれる、古代ギリシア神話でプロメテウスがゼウスから火を盗み人類に与えたという話を想起させる。プロメテウスとゼウスの祖父であるウラヌスは、天王星とウランの語源となった。

1940年に計画されていた東京オリンピックでは、聖火はギリシアからユーラシア大陸を横断して日本へ届けられるはずであった。ドローイング《彼女たち》(2019) cat. no. 5-148-149)は、その到着を待ち望んでいた少女たちの肖像である。第二次世界大戦中、原子爆弾の開発のために、原料となるウランがヨアヒムスタールからドイツのケール港を経由し潜水艦で日本へ運ばれようとしていた。しかし1945年、ウランが日本へ辿り着く前に、原子爆弾「リトルボーイ」が広島に、「ファットマン」が長崎に投下され、戦争は終わりを迎える。かくして、ウランもオリンピック聖火も日本へ届けられることはなく、世界で初めての原子爆弾が光を放つことになる。

In this exhibition Kobayashi, whose work primarily deals with themes of the invisible, time and history, family and memory, presents an installation consisting of text, photos, videos, drawings, a sculpture and objects. It traces the footsteps of uranium, the raw material for nuclear weapons, and the Olympic torch on its path to Berlin and Tokyo, and weaves a story that begins with the origins of nuclear power and continues through its weaponized use in World War II and to the present day.

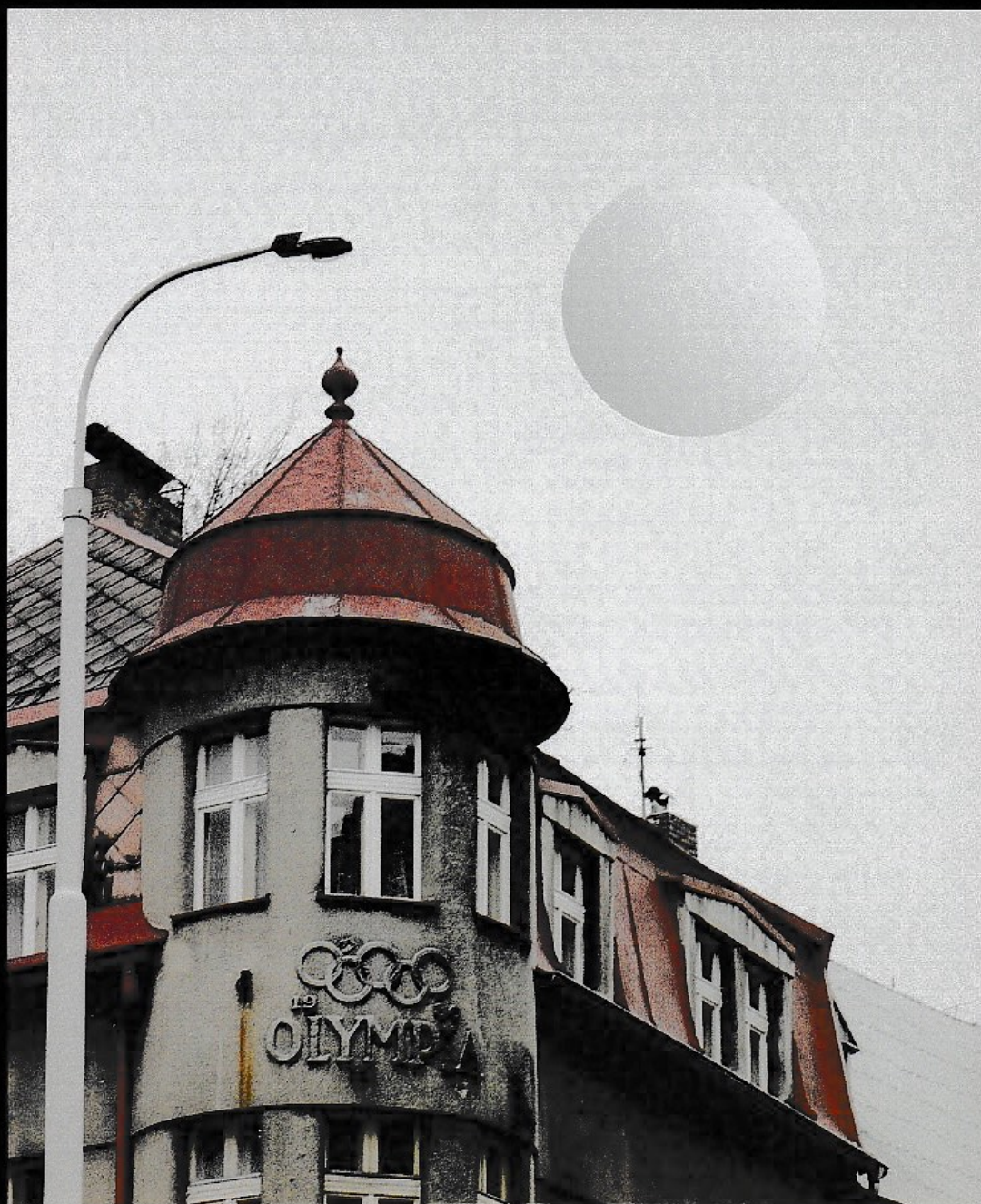
Her sculpture *Dollar* (2017) (cat. no. 3-54) is made of uranium glass, which emits fluorescent green light. The origin of the US dollar is said to be the Joachimsthaler, a silver coin minted in the early 16th century in Joachimsthal (now Jáchymov), a city in Bohemia (now the Czech Republic). Later uranium ore was also mined in this area, but the workers who handled it suffered from mysterious diseases, and the shiny black ore was called *pitchblende*, a German word meaning "accursed stone."

The origins and history of uranium and the Olympic torch intersect at many points. The series of 47 photographs *My Torch* (2019) (cat. no. 3-27) clearly references the sacred element of fire. The first relay in modern times was for the Berlin Olympics, under the Nazi regime in 1936. Two years later, in 1938, the invading Nazi army moved back along the torch relay route as if retracing it, and in occupied Joachimsthal prisoners of war were forced to dig uranium ore. In the video *In My Hand - The Fire of*

Prometheus (2019) (cat. no. 3-18), fire rising from the hand evokes the ancient Greek myth of Prometheus stealing fire from Zeus and giving it to humanity, and by extension the origins of sacred fire. Both the planet Uranus and the element uranium come from the primordial sky god Uranus, the grandfather of both Prometheus and Zeus.

For the Tokyo Olympics, scheduled for 1940, the sacred fire was supposed to be brought from Greece to Japan across the Eurasian continent. Kobayashi's drawings *Her* (2019) (cat. nos. 3-16-20) portray girls waiting eagerly for its arrival. During World War II, uranium was scheduled to be transported by submarine from Joachimsthal, via the port of Kiel in Germany, to Japan for the development of atomic bombs. However, in 1945, before the uranium reached Japan, the atomic bomb Little Boy was dropped on Hiroshima and Fat Man on Nagasaki, and the war came to an end. Neither uranium nor the Olympic torch ever reached Japan, but the light of the world's first wartime atomic bombing was shed on the nation.





P.110. 132, 131
3-27
わたしのトーチ
My Torch
2019

P.110. 132-131
オリンピア1956
銀の道とオリンピック、聖コアヒムの谷、ホヘミア
OLYMPIA 1956
Silver Road and the Olympics, Saubt Joachimsthal, Bohemia
2019

P.110. 132-131
神聖なるオリンピアの地にあるヘラ神殿
“崇高なるものに捧げられる永遠の源”
“The eternal source dedicated to the highest.”
Temple of Hera in the Sacred Grove of Olympia.
2019



Temple of Hera in the Sacred Grove of Olympia
2019 E. Katsipis

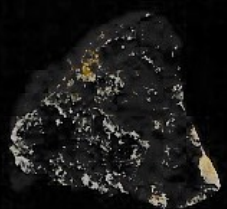
彼女たちは待っていた

オリンピックを
聖火がこの町へやってきてくれるのを
炎が、光が、あたりを
明るく照らしてくれるのを

エーリス
彼女たちは待っていた
She waited
2019

エーリス
オリンピックを
聖火がこの町へやってきてくれるのを
炎が、光が、あたりを明るく照らしてくれるのを
for the Olympics
for the sacred fire to come to her little town.
for the fire, for its light, to illuminate her little town.
2019

Pechblende



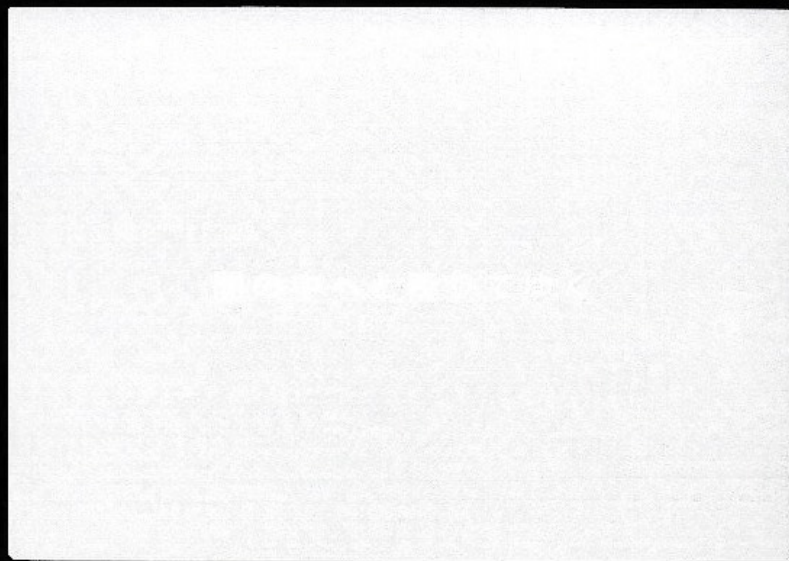
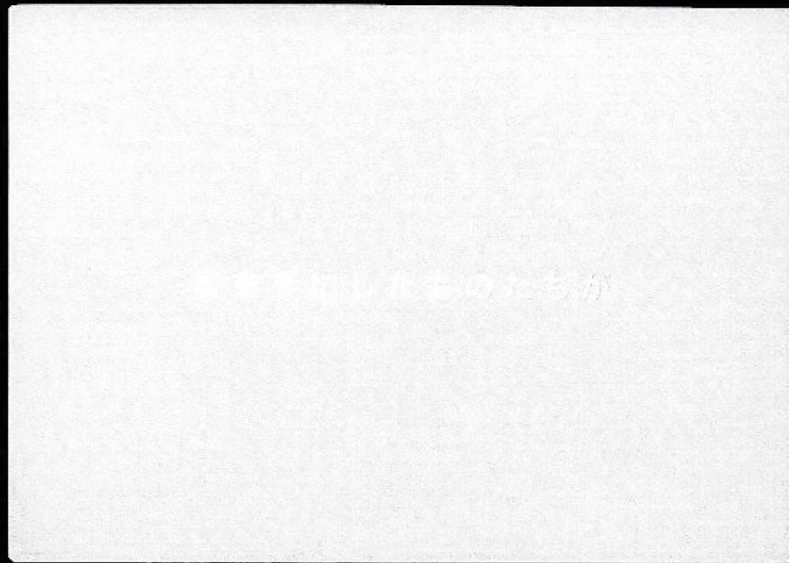
Uran



Uranium

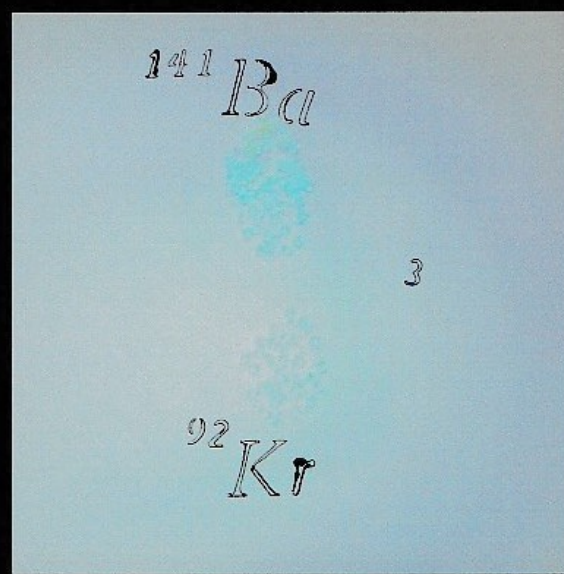
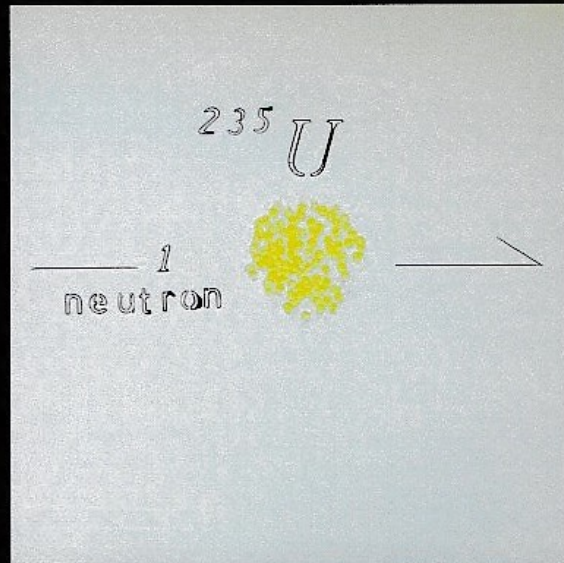
3.10.17
ウランと天王星
不幸の石 ウラン
Uran and Uranus
Pechblende (uraninite) - Uran
2017

3.10.17
ウランと天王星
天王星
Uran and Uranus
Uranus
2017



17.011
炎を手にしたものたちが
Torch in hand.
2019

37.011
闇の中へと降りてゆく
van de donker af dalende.
2019



3-23↑
核分裂 U235
From U235
2019

3-24↓
核分裂 Ba141, Kr92
From Ba141, Kr92
2019





James McNeill Whistler, *Portrait of a Woman*, 1864

Figure 1
3-24
190
Dollar
2017

Chapter 1 03 **442-10**
Roda Kabirchi

あれほど待ち望んだその爆弾は
できうぶりさきに
落とされることになる

爆弾は完成しない



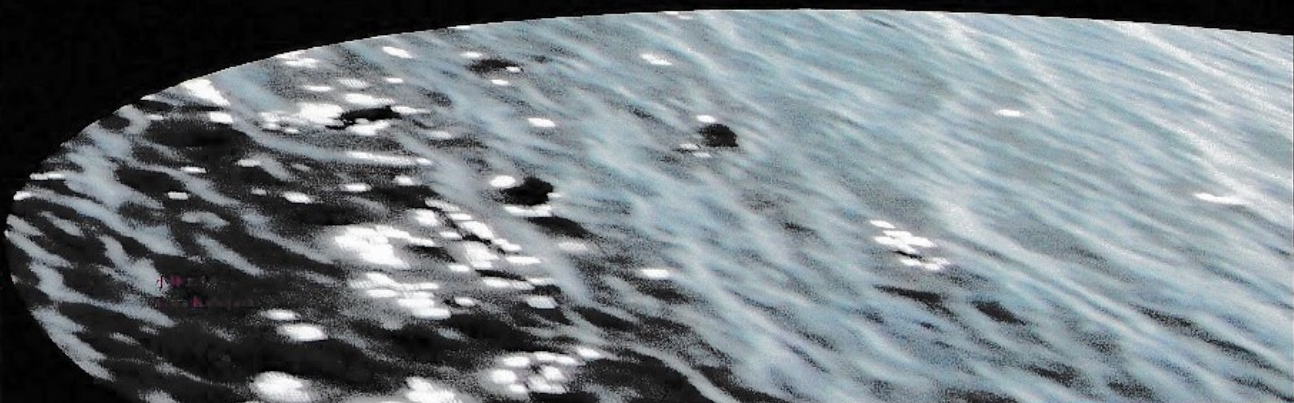


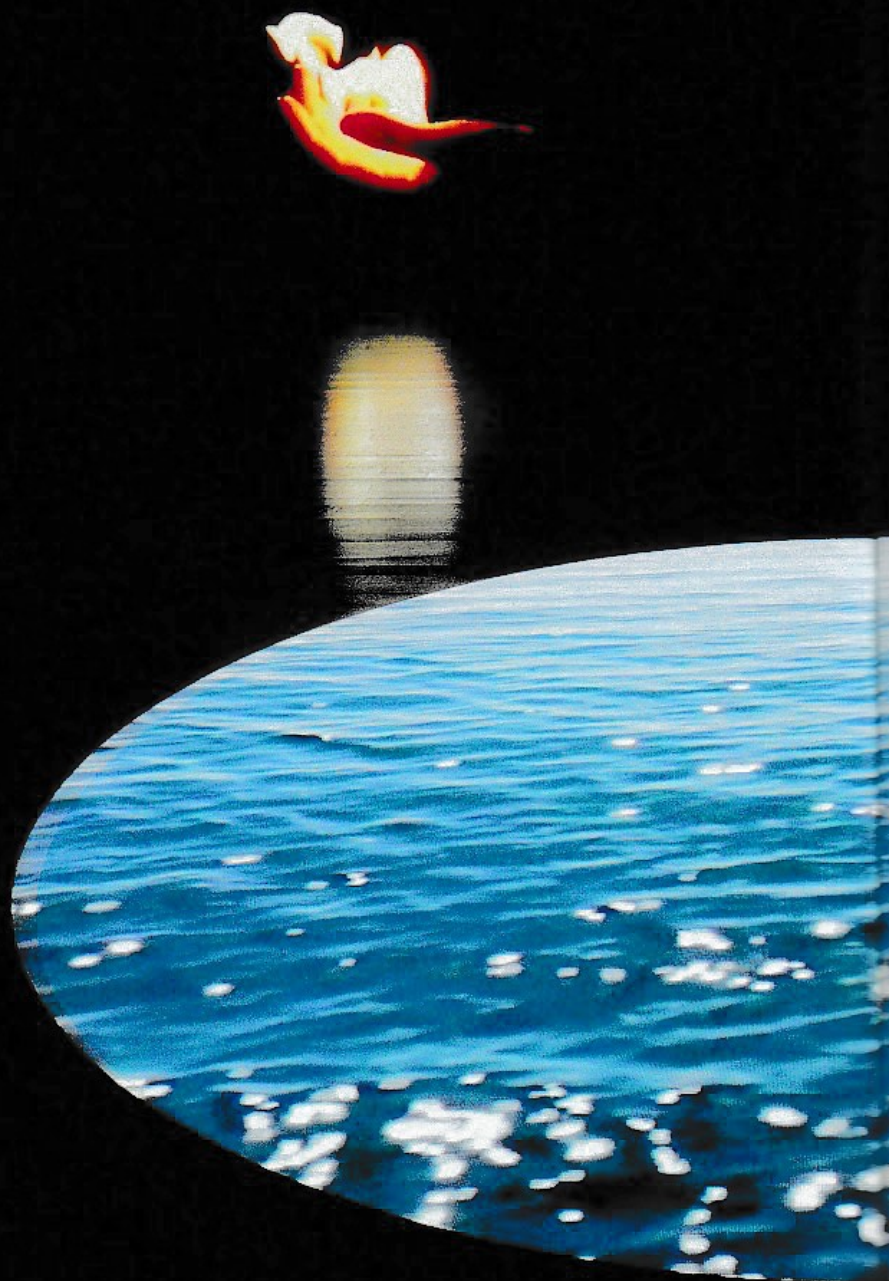
3-16, 17
彼女たち
He
2019



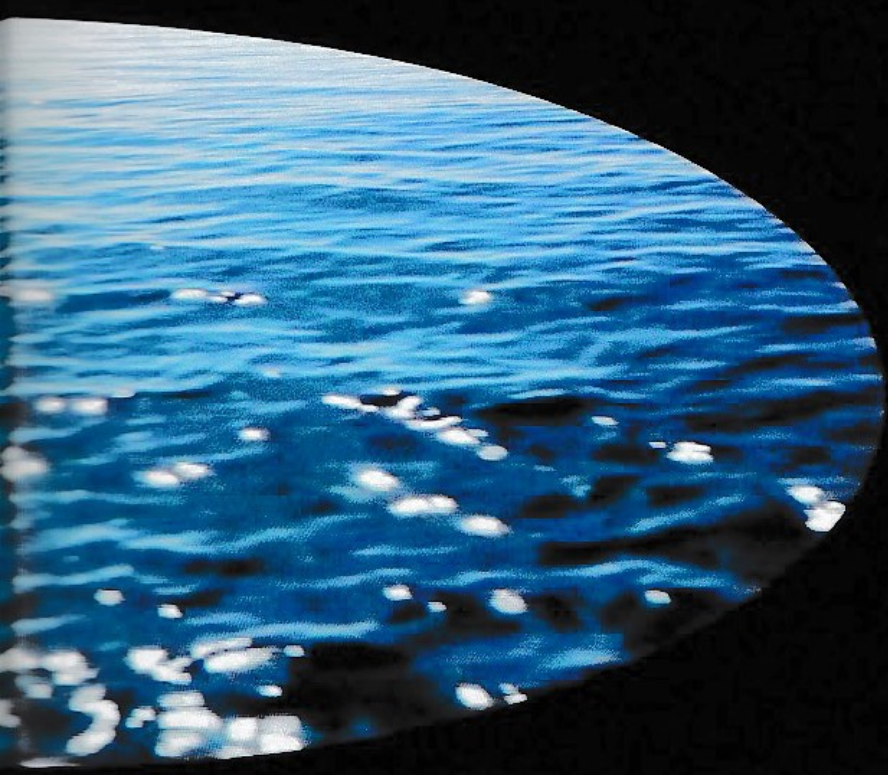


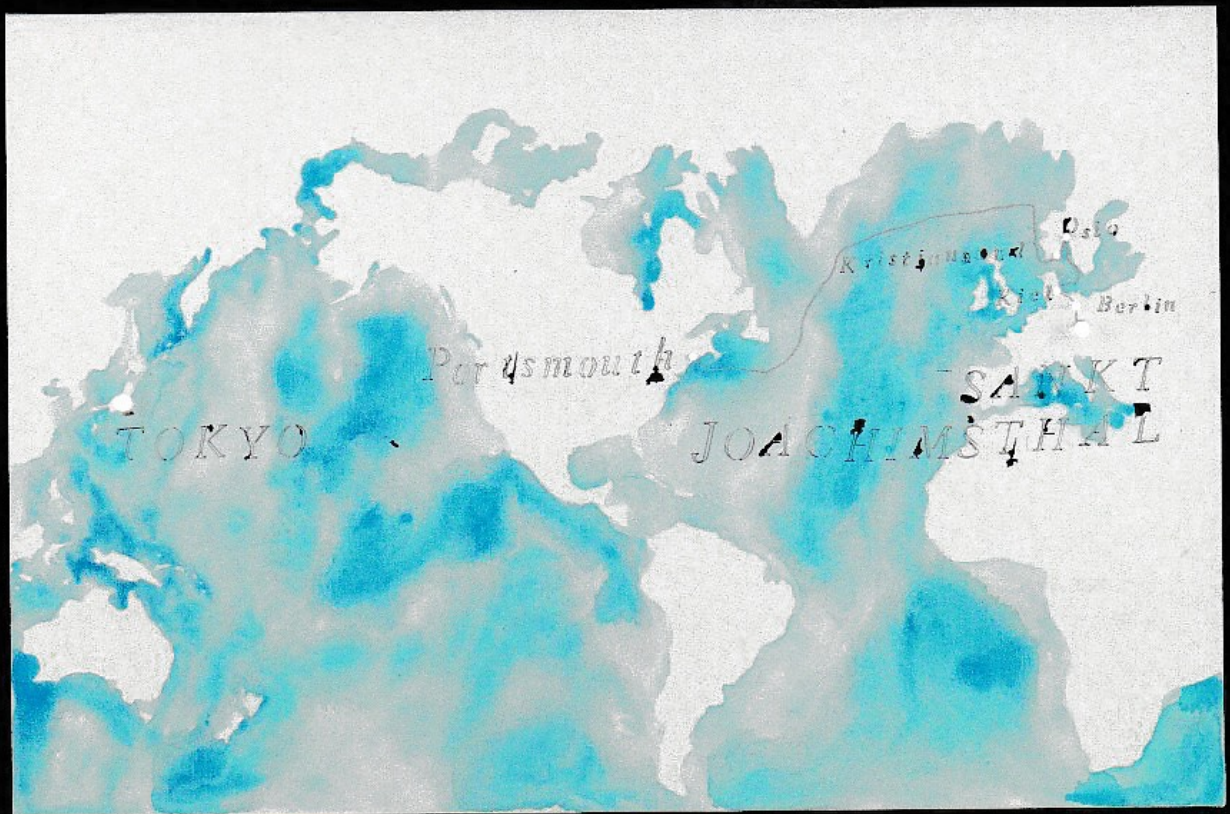
Ex Occidente Lux





306
U23 往 U245 キールにて
U234 and U235 at Kiel
2019





3-25

ドイツのコースの地図

ナチ・ドイツから大日本帝国へ届けられる予定だったウランのコース

聖ヨアヒムの谷-ポーツマス (東京) 1945

3 Course Map

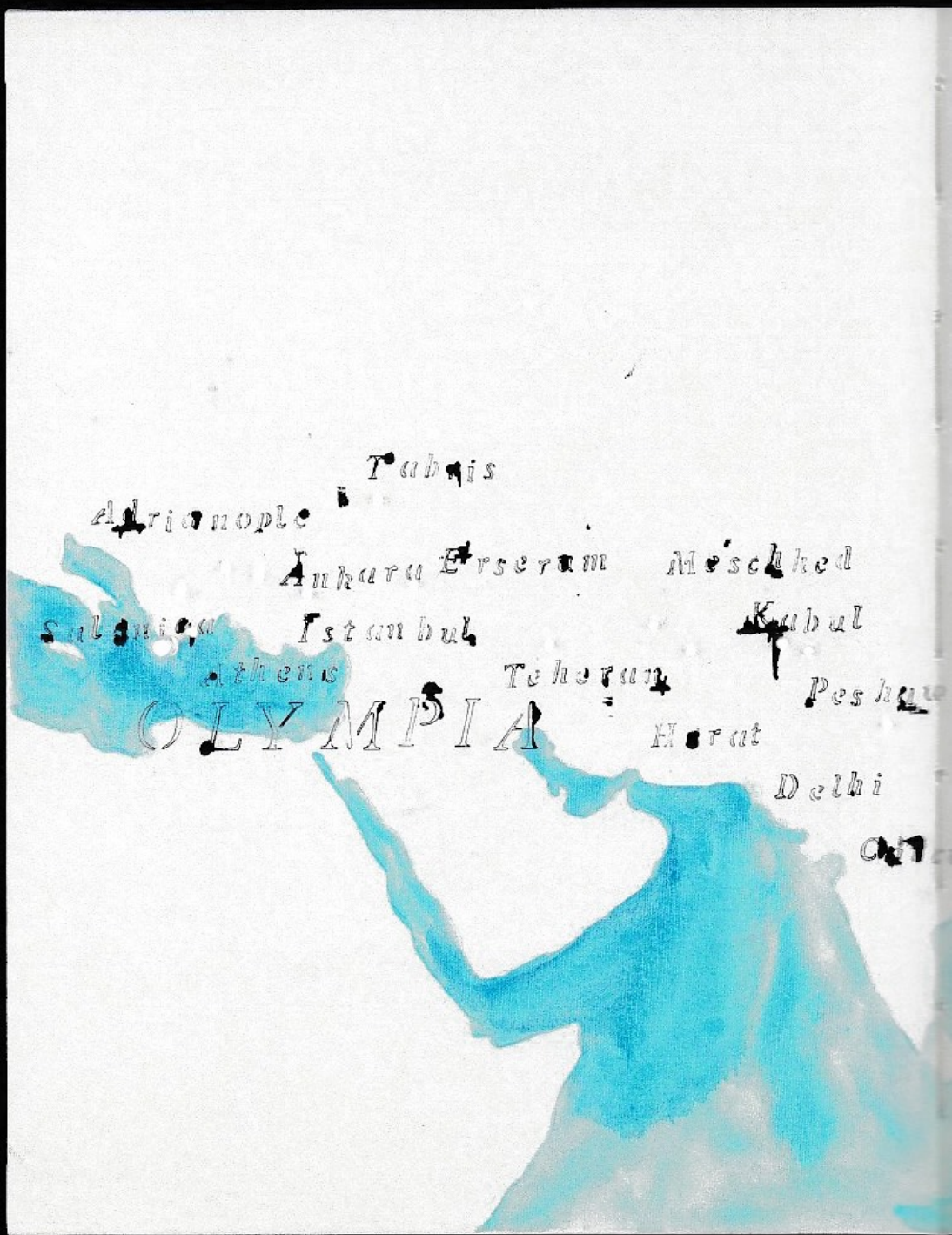
The Proposed Course for the Delivery of Uranium from N. of Germany to the Empire of Japan

Sankt Joachimsthal - Portsmouth - Tokyo, 1945

3019



4-14
3つのコースの地図
ベルリンオリンピック聖火リレーコース
オリンピック—ベルリン 1936
3 Course Map
The Course for the Berlin Olympic Games Torch Relay
Olympia—Berlin, 1936
2019



3-15

シルクロードの地図

東京オリンピック聖火リレーコースの計画

オリンピック東京 1940

Y. C. S. Maps

The Planned Course for the Tokyo Olympic Games Torch Relay

Olympia Tokyo, 1940

2019



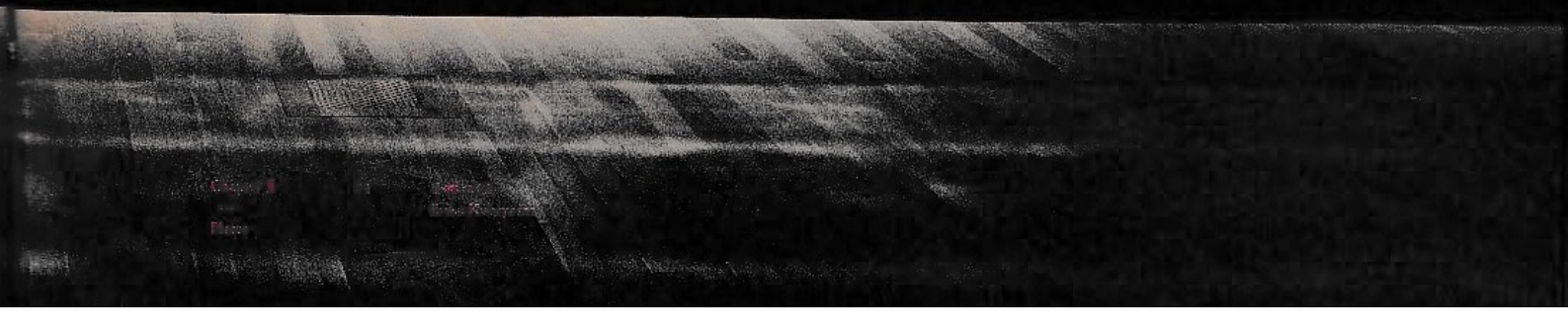






5-27
わたしのトーチ
My Torch
2019

© 2019 株式会社 日本放送協会





DOCUMENTATION
DESCRIPTIVE
RECORDS

INDEXING

RECORDS MANAGEMENT

RECORDS



Little Boy

August 6, 1945

8:15 am

Fat Man

August 9, 1945

11:02 am

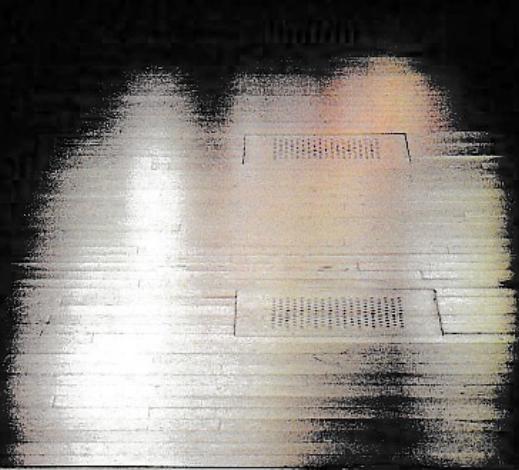
3-334↑	3-334↓
リトルボーイ	ファットマン
1945年8月6日	1945年8月9日
8:15 am	11:02 am
<i>Little Boy</i>	<i>Fat Man</i>
<i>August 6, 1945</i>	<i>August 9, 1945</i>
<i>8:15 am</i>	<i>11:02 am</i>
3017	3017



11-38
わたしの手の中のプロメテウスの火
In My Hand - The Fire of Prometheus
2019







小林エリカ

1978

東京都に生まれる

2002

東京大学大学院情報学環・学際情報学府修士課程修了

東京都在住

主な個展

2008

- 「US」Gallery 360°(東京)|10月14日-29日

2009

- 「history of us」ビルドスペース(宮城)|4月11日-26日

2010

- 「本棚の裏側」35.64474 139.70057(東京)|3月27日-5月2日

- 「Portrait of your past」ユトレヒト/ナウ・アイデア(東京)

6月1日-6日

2011

- 「親愛なるキティーたちへ」ロゴスギャラリー(東京)|4月14日-26日

2013

- 「忘れられないの」Gallery 360°(東京)|9月20日-10月5日

2014

- 「マダム・キュリーと朝食を」Gallery 360°(東京)|8月2日-9日

- 「彼女は鏡の中を覗きこむ」Gallery 360°(東京)|11月25日-12月6日

2017

- 「彼女は鏡の中を覗きこむ/庭」Gallery 360°(東京)|5月12日-27日

- 「子ども時代 Childhood」ユトレヒト/ナウ・アイデア(東京)

11月14日-25日

- 「Trinity トリニティー」軽井沢ニューアートミュージアム(長野)

11月29日-2018年1月14日

2019

- 「野鳥の森 1F」Yutaka Kikutake Gallery(東京)|2月1日-3月9日

主なグループ展

2003

- 「第6回岡本太郎記念現代芸術大賞展」川崎市岡本太郎美術館(神奈川)|2月27日-4月13日

2011

- 「CANDIES 2011 chapter 1 "Kitty"」[国際舞台芸術ミーティングin横浜
ショーケース「A Woman is a woman is a woman.」]BankART Studio NYK
(神奈川)|2月17日-20日 ▶羊屋白玉とのコラボレーションによる舞台作品の
テキスト・演出を担当

- 「第4回ポルトサント・ビエンナーレHomo Virtualis」(ポルトガル)

7月24日-8月14日

2013

- 「十和田奥入瀬芸術祭: SURVIVE この感星の、時間旅行へ」
十和田市現代美術館(青森)|9月21日-11月24日

2014

- 「COSMIC GIRLS」[the MOTHER of DESIGN meets Cosmos]丸の内
ハウス(東京)|10月27日-11月16日

2015

- 「Invisible Energy」オークランド工科大学附属セントポール・スト
リート・ギャラリー(ニュージーランド)|2月20日-3月27日- 「ラディアント」[グリーンティール・ギャラリー]ポルトラミ・ギャラリー(ニューヨ
ーク)|2月28日-3月28日- 「小林エリカ& The Future: Your Dear Kitty, The Book of
Memories」ロイドホテル&カルチュラル・エンバシー/日本カル
チャーセンター・アムステルダム(オランダ)|3月27日-5月6日

「ここに棲む一地域社会へのまなざし」アーツ前橋(群馬)

2016

- 「六本木クロッシング2016展: 僕の身体、あなたの声」森美術館(東京)

3月26日-7月10日

- 「東京と、タイムマシンと、」Yutaka Kikutake Gallery(東京)

4月8日-5月21日[タイムマシン展]

- 「バーベチュアル・アンサー・タンテ」ウメオ大学 ビルド・ムセアット(ス
ウェーデン)|10月2日-2017年4月16日

2017

- 「インフィニット・ナラティヴス」ギャラリー456(ニューヨーク)|12月15日-
2018年1月5日

2018

- 「ハッシュ・アストラル ラディアントII」[グリーンティール・ギャラリー] ギャラリー・フ
ランチェスカ・ピア(チューリッヒ、スイス)|3月24日-5月12日、クンスト・ハ
レ(リュネブルク、ドイツ)|5月26日-7月22日「プロジェクト FUKUSHIMA! presents 清山飯坂温泉芸術祭
-なんの因果か、ラジウム玉子-」旅館清山(福島)|5月5日-6月3日
[土日のみ]

2019

- 「東綴日記考—女性たちの、想像の部屋」市原湖畔美術館(千葉)

4月6日-7月15日

受賞

1999

水戸短編映像祭、水戸市長賞

2000

- NTT電子コミック大賞

2003

- 第6回岡本太郎記念現代芸術大賞、入選

2014

- 第27回三島由紀夫賞候補、第151回芥川龍之介賞候補
(「マダム・キュリーと朝食を」集英社)

レジデンス

2003

- バンフ・センター(カナダ)

2006

- エストニア芸術家協会(タリン,エストニア)
- CAMAC(マルネ=シュル=セース,フランス)

2007

- アジアン・カルチュラル・カウンシル(ニューヨーク)

主要刊行物 | Selected Publications

単著 | Books

- 『ネバーソープランド』東京:河出書房新社,2001年
- 『空爆の日に会いましょう』東京:マガジンハウス,2002年
- 『終わりとはじまり』東京:マガジンハウス,2006年
- 『この気持ちいったい何語だったらつうじの?』東京:理論社,2009年
- 『親愛なるキティーたちへ』東京:リトルモア,2011年
- 『忘れられないの』東京:青土社,2013年
- 『光の子ども1』東京:リトルモア,2013年
- 『マダム・キュリーと朝食を』東京:集英社,2014年
- 『光の子ども2』東京:リトルモア,2016年
- 『彼女は鏡の中を覗きこむ』東京:集英社,2017年
- 『光の子ども3』東京:リトルモア,2019年
- 『トリニティ,トリニティ,トリニティ』東京:集英社,2019年

共著 | Collective Writings

- 巽孝之、宮坂敬造、坂上貴之、岡田光弘、坂本光(編著)『幸福の逆説』東京:慶應義塾大学出版会,2005年
- 北條一浩(編)『冬の本』東京:夏葉社,2012年
- 週刊朝日編集部(編)『忘れられない一冊』東京:朝日新聞出版,2013年
- 管啓次郎、十和田奥入瀬芸術祭(編)『十和田、奥入瀬 水と土地をめぐる旅』京都:青幻舎,2013年
- 池内紀、小林エリカ、子安美知子ほか『ミハエル・エンデが教えてくれたこと—時間・お金・ファンタジー』東京:新潮社,2013年
- 朝吹真理子、福田里香、小林エリカ、ほしよりこ、mamoru、阿部海太郎『庭園美術館へようこそ 旧朝香宮邸をめぐる6つの物語』東京:河出書房新社,2014年
- クラブヒルサイド、スティルウォーター(編)『少女は本を読んで大人になる』東京:現代企画室,2015年
- kvina(小林エリカ、田部井美奈、野川かさね、前田ひさえ)『恋する東京 東京デートガイドブック』大阪:京阪神エルマガジン社,2015年
- kvina(小林エリカ、田部井美奈、野川かさね、前田ひさえ)『Mi amas TOHOKU 東北が好き!』ポストカードブック』東京:リトルモア,2015年
- 山内宏泰『文学とワイン』京都:青幻舎,2017年

- 東山彰良、中田永一、柴崎友香ほか『走る?』東京:文藝春秋,2017年
- 朝吹真理子、彩瀬まる、いしいしんじ、乾ルカ、オカヤヅミ、甲斐みのり、鹿子裕丈、木皿泉、今日マチ子、小林エリカ、坂木司、桜木紫乃、佐藤ジュンコ、平松洋子、藤野可織、文月悠光『ほんのきもち』東京:扶桑社,2018年
- アンネ・フランクハウス(編)、小林エリカ(訳)、石岡史子(監修)『アンネのこと、すべて』東京:ポプラ社,2018年

その他 | Others

- Project Undark (Phew,小林エリカ)、ディーター・メビウス(音楽)『RADIUM GIRLS 2011』[アルバム]BeReKeT,2012年
- Project Undark (Phew and Erika Kobayashi), Dieter Moebius (Music), RADIUM GIRLS 2011 [Album], BeReKeT, 2012.

Erika Kobayashi

1978

Born in Tokyo

2002

MA, Graduate School of Interfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo

Lives and Works in Tokyo

Selected Solo Exhibitions

2008

- "US," Gallery 360°, Tokyo, October 14–29

2009

- "history of us," birdo space, Miyagi, April 11–26

2010

- "Behind the Bookshelf, Kašite de la Librobreraro," 35.64474 139.70057, Tokyo, March 27–May 2

- "Portrait of your past," UTRECHT/NOW IDEa, Tokyo, June 1–6

2011

- "Your Dear Kitty," LOGOS GALLERY, Tokyo, April 14–26

2013

- "Wasurerarenaino (I CAN'T FORGET...)," Gallery 360°, Tokyo, September 20–October 5

2014

- "Breakfast with Madame Curie," Gallery 360°, Tokyo, August 2–9

- "She Looks into the Mirror," Gallery 360°, Tokyo, November 25–December 6

2017

- "She Looks into the Mirror/The Garden," Gallery 360°, Tokyo, May 12–27

- "Childhood," UTRECHT/Now IDEa, Tokyo, November 14–25

- "Trinity," Karuizawa New Art Museum, Nagano, November 29–January 14, 2018

2019

- "1F in the Forest of Wild Birds," Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo, February 1–March 9

Selected Group Exhibitions

2003

- "6th Exhibition of the Taro Okamoto Memorial Award for Contemporary Art," Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki, February 27–April 13

2011

- "CANDIES 2011 chapter 1 'Kitty'" [TPAM in Yokohama, Showcase "A Woman is a woman is a woman"], BankART Studio NYK, Kanagawa, February 17–20 * In charge of text and direction of the play in collaboration with Shirota Hitsujiya

- "4th Bienal do Porto Santo: Homo Virtualis," Portugal, July 24–August 14 *

2013

- "Towada Oirase Art Festival: SURVIVE," Towada Art Center, Aomori, September 21–November 24

2014

- "COSMIC GIRLS" [the MOTHER of DESIGN meets Cosmos], Marunouchi House, Tokyo, October 27–November 16

2015

- "Invisible Energy," ST PAUL ST Gallery, Auckland University of Technology, New Zealand, February 20–March 27

- "The Radiants," [Green Tea Gallery] Bortolami Gallery, New York, February 28–March 28

- "Erika Kobayashi & The Future: Your Dear Kitty, The Book of Memories," The Lloyd Hotel and Cultural Embassy / Japans Cultureel Centrum, Amsterdam, March 27–May 6

- "Living Locally: Reconsidering Critical Regionalism," Arts Maebashi, Gunma, October 9–January 12, 2016

2016

- "Roppongi Crossing 2016: My Body, Your Voice," Mori Art Museum, Tokyo, March 26–July 10

- "TOKYO, TIME MACHINE, and then...," Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo, April 8–May 21 [TIME MACHINE]

- "Perpetual Uncertainty," Bildmuseet, Umeå University, Sweden, October 2–April 16, 2017

2017

- "Infinite Narratives," Gallery 456, New York, December 15–January 5, 2018

2018

- "Harsh Astral. The Radiants II," [Green Tea Gallery] Galerie Francesca Pia, Zurich, Switzerland, March 24–May 12; Halle für Kunst, Lüneburg, Germany, May 26–July 22

- "Project FUKUSHIMA! presents Seizan Iizaka-onsen Art Festival 2018," Ryokan Seizan, Fukushima, May 5–June 3 [Only on Saturday and Sunday]

2019

- "Women Imagining Rooms: About the Diary of Lady Sarashina," Ichihara Lakeside Museum, Chiba, April 6–July 15

Awards

1999

- Mito Mayor's Prize, Mito Short Film Festival

2000

- The Grand Prize, NTT Comic Online Contest

2003

- Nominated the 6th Taro Okamoto Memorial Award for Contemporary Art

2014

- Nominated the 27th Mishima Yukio Prize and the 151st Akutagawa Prize (*Breakfast with Madame Curie*, Shueisha)

Residences

2003

- Banff Centre, Canada

2006

- Estonian Artists' Association, Tallinn, Estonia
Centre d'art marnay art centre (CAMAC), Marnay-sur-Seine, France

2007

- Asian Cultural Council, New York

[KK]

3-29

Pages of a Novel
Pages of a Novel
2019

ビデオ、カラー、サウンド
Video, color, sound
32分30秒
32 min. 30 sec.

3-30

Piano Sonata #32, 2nd Movement
Piano Sonata #32, 2nd Movement
2019

ビデオ、カラー、サウンド
Video, color, sound
32分30秒
32 min. 30 sec.

3-31

Chris
Chris

2019
ビデオ、カラー、サウンド
Video, color, sound
32分30秒
32 min. 30 sec.

小林エリカ
Erika Kobayashi

3-01

オリンピック1936
銀の道とオリンピック
聖ヨアヒムの谷、ボヘミア
OLYMPIA 1936
Silver Road and the Olympics,
Sankt Joachimstal, Bohemia
2019

Cプリント、鏡
C-print, mirror
43.2×35.6cm

3-02

彼女たちは待っていた
She waited
2019

スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-03

オリンピックを
聖火がこの町へやってきてくれるのを
炎が、光が、あたりを明るく照らして
くれるのを
for the Olympics
for the sacred fire to come to her little town,
for the fire, for its light, to illuminate her
little town.
2019

スプレー塗料、鏡

Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-04

ドル
Dollar
2017
ウランガラス、鏡、紫外線ランプ
Uranium glass, mirror,
ultraviolet lamp
61.0×41.0×7.5cm, φ70.0cm
個人蔵
Private collection
協力 妖精の森ガラス美術館
Cooperation

Fairywood Glass Museum

3-05

炎が甦り、聖火リレーのトーチに
灯される
The flame was resurrected, the sacred fire
passed from torch to torch
2019

スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-06

ギリシア神話の神、
プロメテウスが盗み出し、
人間に与えた太陽の火
the fire stolen from the sun and given to
humanity by Prometheus
2019

スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-07

神聖なるオリンピックの地にある
ヘラ神殿"崇高なるものに捧げられる
永遠の源"
"The eternal source dedicated to the
highest." Temple of Hera in the Sacred
Grove of Olympia.
2019

インク、墨汁、和紙、鏡
Ink, Japanese ink, Japanese paper,
mirror
95.0×60.0cm

3-08

炎を手にしたものが、
闇の中へと降りてゆく
Torch in hand, men descended into darkness
2019

スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-09

ウランと天王星
不幸の石/ウラン
Uran and Uranus
Pitchblende (accursed stone) / Uran
2017
インク、インクジェットプリント
Ink, inkjet-print
21.0×21.0cm

3-10

ウランと天王星
天王星
Uran and Uranus
Uranus
2017
インク、インクジェットプリント
Ink, inkjet-print
21.0×21.0cm

3-11

地底を掘り進んでゆく
excavating deep into the earth
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-12

3つのコースの地図
ベルリンオリンピック聖火リレーコース
オリンピックーベルリン 1936
3 Course Maps
The Course for the Berlin Olympic
Games Torch Relay:
Olympia-Berlin, 1936
2019
アクリル絵具、インク、カンヴァス、LED
Acrylic paint, ink, canvas, LED
53.0×80.3cm
協力 HIGURE 17-15 cas
Cooperation HIGURE 17-15 cas

3-13

彼女たちは待っていた
She waited
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm

協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-14

暗い空を見あげながら
she looked up at the dark sky
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)

3-15

3つのコースの地図
東京オリンピック
聖火リレーコースの計画
オリンピックー東京 1940
3 Course Maps
The Planned Course for the Tokyo
Olympic Games Torch Relay:
Olympia-Tokyo, 1940
2019
アクリル絵具、インク、カンヴァス、LED
Acrylic paint, ink, canvas, LED
53.0×80.3cm
協力 HIGURE 17-15 cas
Cooperation HIGURE 17-15 cas

3-16

彼女たち
Her
2019
鉛筆、インク、墨汁、コットンペーパー
Pencil, ink, Japanese ink,
cotton paper
56.0×45.7cm

3-17

彼女たち
Her
2019
鉛筆、インク、墨汁、コットンペーパー
Pencil, ink, Japanese ink,
cotton paper
56.0×45.7cm

3-18

彼女たち
Her
2019
鉛筆、インク、墨汁、コットンペーパー
Pencil, ink, Japanese ink,
cotton paper
56.0×45.7cm

3-19

彼女たち
Her
2019
鉛筆、インク、墨汁、コットンペーパー
Pencil, ink, Japanese ink,
cotton paper
56.0×45.7cm

- 3-20
彼女たち
Her
2019
鉛筆、インク、墨汁、コットンペーパー
Pencil, ink, Japanese ink,
cotton paper
56.0×45.7 cm
- 3-21
光は西方から
Ex Occidente Lux
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
56.0×140.0 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-22
けれど、聖火はここへは届かない
the sacred fire had failed to reach her
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-23
核分裂 U235
Fission U235
2019
インク、インクジェットプリント
Ink, inkjet-print
21.0×21.0 cm
- 3-24
核分裂 Ba141, Kr92
Fission Ba141, Kr92
2019
インク、インクジェットプリント
Ink, inkjet-print
21.0×21.0 cm
- 3-25
3つのコースの地図
ナチ・ドイツから大日本帝国へ
届けられる予定だったウランのコース
聖ヨアヒムの谷ーポーツマスー
(東京) 1945
3 Course Maps
The Planned Course for the Delivery of
Uranium from Nazi Germany to the
Empire of Japan: Sankt Joachimsthal—
Portsmouth—(Tokyo), 1945
2019
アクリル絵具、インク、カンヴァス、LED
Acrylic paint, ink, canvas, LED
53.0×80.3 cm
協力 HIGURE 17-15 cas
Cooperation HIGURE 17-15 cas
- 3-26
U234とU235 キールにて
U234 and U235 at Kiel
2019
ビデオ
Video
- 3-27
わたしのトーチ
My Torch
2019
Cプリント
C-print
各 54.9×36.7 cm (47点組)
each 54.9×36.7 cm (set of 47)
撮影 野川かさね
Photo Kasane Nogawa
- 3-28
彼女たちは待っていた
She waited
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-29
けれど、ウランはここへは届かない
but the uranium failed to reach her
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-30
爆弾は完成しない
the bomb was never completed
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-31
あれほど待ち望んだその爆弾は、
できるよりさきに、落とされることになる
The bomb she'd so anticipated ended up
dropped on Japan instead
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-32
リトルボーイ
1945年8月6日
8:15 am
Little Boy
August 6, 1945
8:15 am
2017
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
14.8×21.0 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-33
ファットマン
1945年8月9日
11:02 am
Fat Man
August 9, 1945
11:02 am
2017
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
14.8×21.0 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-34
炎が人間を焼き払いながら
as they burned everyone to ashes
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-35
光があたりを明るく照らす
illuminating everything around them
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-36
戦争が終わる
The war ended
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-37
彼女たちの人生は終わらない
but her life, their lives, did not.
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-38
わたしの手の中のプロメテウスの火
In My Hand—The Fire of Prometheus
2019
ビデオ
Video
12秒
12 sec.
撮影 西村亜希子、高梨洋一
Video
Akiko Nishimura,
Yoichi Takanashi
- 3-39
炎を手にしたものたちが
Torch in hand,
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-40
闇の中へと降りてゆく
men descended into darkness.
2019
スプレー塗料、鏡
Spray paint, mirror
18.2×25.7 cm
協力 澤辺裕加 (Printilo yuka)
Cooperation
Yuka Sawabe (Printilo yuka)
- 3-41
彼女たちは待っていた
She Waited
2019
ハンドアウト
Hand out
- All works:
Courtesy of Yutaka Kikurake Gallery

米田尚輝『話しているのは誰？ 現代アートに潜む文学』図録、美術出版社、2019
年、pp.17-19、
24、105-140、253-255、279-280

Naoki Yoneda, Image Narratives, Bijutsu Shuppan-Sha Co., Ltd.,20